

## 公共施設の最適化について

次に、公共施設の最適化について伺います。

今後の吹田の財政を考えるに、最も大きな負担の一つとなるのが、公共施設の維持管理費及び建てかえに伴う建設費です。吹田市は400を超える公共施設を有し、今年度で築年数が30年を超える建物が、延べ床面積比で58.2%にも上ります。

このたび市長は、施政方針演説において公共施設の最適化という言葉を使われました。

先ほども申しましたとおり、現在地方自治体において大きな負担となっているのが、高度成長期に一気に建設された公共施設の経年劣化に伴う修繕費及び建てかえ費です。吹田市においては、万博に合わせニュータウンの開発が一挙に進んだことから、特に北部地域では公共施設の寿命が一斉にやってきます。こうした危機がもう間もなく確実にやってくるという状況の中で、財政的に対応できないという悲惨な事態や、過度に将来世代に負担を先送りしないためにも、井上市長にはリーダーシップを持ってこの問題に対処していただきたく存じます。

公共施設のマネジメントについては、ファシリティーマネジメントという手法を取り入れている自治体がふえてきています。このファシリティーマネジメントとは、施設を総合的に企画管理し、有効活用することによって、最小限の支出で最大限の市民サービスを実行することです。

具体的には、これまで各部の所管であった施設を我が市でいえば政策推進部等のもとで一括管理することで、全体を見通して保全計画を立てられるだけでなく、例えば学校と公民館の併設等、各部にまたがる施設を一体で建てるなど、公共施設施策の新たな可能性を開くことができるというメリットが挙げられます。また、将来支出を把握することで、財政計画がより必要性に応じた形で立てることができ、これからの吹田市にとって非常に有効な施策であると考えます。

このファシリティーマネジメントには段階があり、第1段階が現状把握、第2段階が公共施設についての目標と目標値の設定、第3段階が具体的な対応策、施設の継続維持や建てかえ・複合化・廃止の検討、それらの段階を踏まえて具体的な対応策の実施に移ります。つまり時間がかかります。

現在、吹田市では建築課が市保有の建物についてデータベース化に取り組んでおり、今年度末には完成すると拝聞しております。これは第1段階に当たると考えます。

そこで、伺います。この建築課が作成されるデータベースを政策推進部は今

後どのように活用されるおつもりでしょうか。また、現段階で市は公共施設の一体管理についてはどのようにお考えでしょうか。進められるのであれば、どのようなスケジュールを予定されておりますか。

平成23年度3月の建設委員会において同僚議員がファシリティーマネジメントの勉強会開催の御提案をされており、山中副市長はそれに対し積極的な答弁をされております。このとき提案された勉強会についての進展をお聞かせください。

そして、市長は公共施設についてどのような問題意識を持ち、どのように取り組まれるおつもりでしょうか、お答えください。

平野孝子政策推進部長

次に、市有建築物のデータベースの活用及び公共施設の一体管理とスケジュールについてでございますが、本市の公共施設は、昭和56年度（1981年度）以前の旧耐震基準において建築された施設が大半を占め、老朽化による更新が一定期間に集中し、今後大きな財政負担として顕在化することが予測されております。

しかしながら、課題分析を行うに当たっての必要なデータが整っておらず、また現在の施設管理は、施設を運営している所管ごとに管理されており、施設管理に関する統一した基準がなく、施設に不都合が生じた場合に、運営における影響度を見て対応する対症療法的な維持保全になっております。

現在、施設情報の一元化、施設カルテの台帳整備、ライフサイクルコストのシステム化等を目的とした市有建築物保全システムの平成24年度（2012年度）運用開始に向け、担当部局におきましてシステム構築及び基礎データとなる建築物の状況把握を行っているところでございます。

今後、本システムをファシリティーマネジメントに当たっての戦略的ツールとして活用してまいります。

また、システムを有効に活用し、ファシリティーマネジメントに取り組んでいくためには、横断的に土地や建物を統轄する新たな体制整備が必要でございます。そのために、総合的な資産運用に係る一連の業務を一括して行う組織体制を整備してまいりたいと考えております。

こういった取り組みに合わせ、長期的かつ総合的な視点から計画的利活用、保全管理、再整備及び土地の有効活用など保有資産の効果的な対策を検討し、良好な施設機能を長期にわたり安定的に供給するため、公共施設の最適化方針案の策定に向け取り組んでおります。

今後、新たな組織体制において公共施設情報を一元管理し、施設の現状の基礎的な資料となる施設白書の作成や、施設整備や維持保全に関する公共施設保全整備計画の策定を行い、公共施設の最適化を推進してまいりたいと考えております。

なお、ファシリティーマネジメントに関する勉強会につきましては、7月14日に行政の維新プロジェクトマネジメントチームの関連部局が集まり、専門家からファシリティーマネジメントの重要性等について話を伺ったところでございます。

また、職員研修所主催研修といたしまして、全庁の管理職員を対象とするファシリティーマネジメント研修を8月25日に実施する予定でございます。

それらのほかに市町村アカデミー等で開催されたファシリティーマネジメントに関する研修に担当職員を参加させ、知識の向上を図るとともに、部内の職場研修を通じてファシリティーマネジメントに対する共通理解を得るように努めているところでございます。

井上哲也市長

次に、公共施設の最適化についてでございますが、施設の老朽化に伴う改修や建てかえに当たり、大きな財政負担が一定期間に集中することが見込まれております。また、多様化する市民ニーズを初め、省エネルギーなど環境問題やユニバーサルデザインなどの視点を踏まえた施設機能の向上を図ってまいりますことが重要となっております。

そのため、将来コストを見据えた総合的・計画的な保全管理に取り組んでいくことが必要であり、現在整備を進めている市有建築物保全システムを活用することとあわせて、公共施設最適化方針を策定し、施設のあり方、適切な配置、効率的な管理運営などについて多角的な視点から検討を行ってまいりたいと考えております。

足立

2点目、公共施設マネジメントについてです。

7月30日のマネジメントチーム会議で、我が市がファシリティーマネジメントの取り入れについて大きく前進したことを非常にうれしく思います。担当の方々には、引き続き力を尽くしていただきたく存じます。

答弁で施設白書の作成、公共施設保全整備計画の策定を行うとのことですが、その具体的なスケジュール、いつまでに白書を作成し、いつまでに計画を策定されるのか、お答えください。

また、平成25年度には、第3次総合計画の中間見直しが行われます。そこに今回策定する具体的な計画を反映させる必要があると考えますが、中間見直しには間に合うスケジュールを組まれておられるのでしょうか。

2点目に、公共施設の最適化の具体的なスケジュールと総合計画との関連での御質問でございます。

公共施設の最適化方針につきましては、平成24年度（2012年度）に施設白書の作成をいたしまして、この公表に基づいて市民ニーズ等を踏まえた中で、平成25年度（2013年度）に全市的な視点で公共施設の最適化方針をまとめるという方向で検討いたしておりますが、可能な限り前倒しで取り組みたいと考えております。

これと第3次総合計画の中間見直しとの関係につきましては、本市の総合的な方向性を示すものとして総合計画について考えていかせていただきますので、これを補完、具現化するようなものとして、現在検討しておりますファシリティーマネジメントの考え方を生かした公共施設の最適化方針等々、ほかにも諸計画との整合性を図ることで、それぞれの役割に応じた実効性のある計画として機能するように検討し、本市にふさわしいまちづくりに資するよう努めてまいりたいと思っておりますので、御理解賜りますようお願いいたします。

○平野孝子政策推進部長 申しわけございません。先ほどの御答弁の中で、平成25年度に公共施設の最適化方針を取りまとめると申しあげましたけれども、公共施設保全整備計画を25年度にまとめるという方向で検討しているということでございます。申しわけございません。訂正させていただきます。